

離層高度において中性粒子を電離させプラズマを作り出すため熱圏の中性大気やプラズマの密度や温度が大きく変化する。加えて、太陽活動の極大期にはフレアが頻発しオーロラや磁気嵐が数多く発生するための電離層プラズマの温度や密度の上昇効果が加わり、太陽風と磁気圏の相互作用による電場の強化もあり、極小期に比して大きなエネルギーを持つ。こうして熱圏に与えられたエネルギーは他の領域に移動することになる。高温の熱圏から下部に向けて熱伝導によりエネルギーが移動することが考えられ、そうすると中間圏の

温度が上がることになる。熱圏で発生した重力波の下方伝播もエネルギー輸送に関わるであろう。このように下層と上層の大気はお互いにエネルギー的に結合している。よって太陽活動の変化により熱圏に引き起こされる大きな変動がある程度下層の大気に影響を与えている可能性がある。この方面の研究はまだ十分でなく1990年～1995年のSTEP (Solar-Terrestrial Energy Program) という国際研究事業の中の重要なテーマとして取り組まれている所である。

---

### 「気象談話室」への投稿をお願いします

教育と普及委員会  
「天気」編集委員会

教育と普及委員会および「天気」編集委員会では、気象学の専門分化や気象学会員の職業の多様化が進むなか、会員相互の交流を促進するため、「気象談話室」欄を一層充実させたいと考えています。当欄は教育と普及委員会による依頼原稿が主ですが、投稿も受け付けています。当欄にふさわしいテーマがありましたら積極的にご投稿ください。また、取り上げてほしいテーマをお知らせくだされば、委員会で執筆者を探すことも検討します。

「気象談話室」は、論文や解説とは異なり、気楽に読める読物を掲載します。気象学的なものの方の見方・考え方についての示唆に富んだ話、一般の普及書や教科書には入り切らないような様々な現象の見方・考え方、説明の難しい問題に対する答えや考え方、最近のトピックに関する説明、気象業務や気象教育の現場の話題、小・中・高校生や一般の方々の研究例の紹介、国際交流、Q&A など、広く多様な題材を扱います。執筆にあたっては、① 高校卒業程度の学力で読める平易な記事とし、② 長さは印刷頁4頁以内、③ 引用文献は原則として避け、④ 学術用語は少な目にし正確で平易な説明をつける、⑤ 気象学研究・気象業務を職業とする人たちの社会特有な用語は用いない、などの点にご留意ください。

採用の期準は、会員に有意義な情報が分かりやすく記述されていることです。「気象談話室」よりも他の欄の方がふさわしいと思われる原稿については、執筆者の了解を得た上で他の欄にまわす場合もありますが、執筆段階ではどの欄が適当かをあまり悩まないでいただきたいと思います。どの欄であれ、本誌を読者の身近なものにするような記事を増やすことが大切であると考えています。